

第2章 環境像と基本目標

1 目標とする環境像

本計画は、「鎌ヶ谷市環境基本条例」の基本理念の達成に向けて、「**自然と社会が調和した地球の未来を育むまち かまがや**」を目標とする環境像とし、地球環境の保全が世界共通の重要課題であることを認識し、日常生活や社会活動のあらゆる側面において積極的に環境保全に取り組み、次世代に誇れるまちづくりを推進します。

これまでの「自然と社会が調和する環境共生都市」を目指した取組みを継承し、未来へつなぐ

SDGsや気候変動対策などの地球規模の課題への対応

**自然と社会が調和した
地球の未来を育むまち かまがや**

鎌ヶ谷市環境基本条例（基本理念）

【基本理念】

環境はすべての生命を育む母体であり、かつ、生態系の微妙な均衡により成り立つ有限なものであることから、これを健全で恵みゆたかなものとして維持することが、環境に対する市民の権利の確保につながるため、市に関わるすべての者が、人と人とのふれあいを基本とした地域力を結集し、協働して良好な環境の保全等に資することを基本理念とする。

2 基本目標

本市は、このおよそ30年の間に新鎌ヶ谷駅の開業や新鎌ヶ谷周辺地区の整備、都市計画道路の整備などの都市計画事業が進み、首都近郊の住宅都市として街並みが大きく変化してきています。

一方、市域の約半分は畑や山林などの緑豊かな土地であり、周辺に生息する野生生物とともに大切に保全・育成が続けられています。

こうした「人と緑と産業が調和し 未来へひろがる 鎌ヶ谷」(鎌ヶ谷市総合基本計画)の環境面からの実現に向けて、本計画が目指す10年後の鎌ヶ谷市のイメージを5つの分野ごとに描いてみました。

これらの将来イメージを、「目標とする環境像」を実現するための基本目標として位置づけ、市民・事業者・行政の協働のもとで、将来イメージの実現に向けた取組みを進めていきます。

なお、目標とする環境像や基本目標を実現するために実施する環境施策は、同時に市の福祉の向上や経済活性化、快適なまちづくり、といった環境以外の分野にも好影響を与えることが予想されます。そこで、環境施策の実施が本市の社会・経済などの複数の異なる課題の解決と相互に関連していることを示すため、それぞれの基本目標に関連するSDGsを標記しました。

標記したSDGsは、本計画の推進によって達成されるゴールであると同時に、鎌ヶ谷市総合基本計画をはじめとする本市の各種計画の推進によって達成されるゴールでもあることを認識しながら、施策の展開を図っていくものとします。



空から見た鎌ヶ谷市

10年後の鎌ヶ谷市のイメージ

循環型社会

「5つのRe」の取組みが定着し、人の生活や企業活動などに伴って発生・消費されるものやエネルギーなど、あらゆるものを資源として循環させ、繰り返し利用する社会が構築されています。



安全・安心社会

市民が健康に生活できる環境が確保され、ごみのポイ捨てなどがない魅力的で快適なまちなみが形成されています。また、気候変動の影響に備えた対策や市民行動の定着により、安全・安心に暮らせるまちになっています。

自然共生社会

農地や樹林地、公園などの緑地が保全され、多様な動植物が生息・生育する豊かな自然にふれあい、身近に感じることができるまちづくりが展開されています。

脱炭素社会

省エネルギー型のライフスタイル、ビジネススタイルが定着し、再生可能エネルギーの利用促進、次世代自動車の普及拡大、エネルギー利用効率の高い住宅・建築物の普及が進み、まちの脱炭素化が進んでいます。

市民・事業者との協働

市民・事業者・行政の協働によるイベントや環境教育などが充実し、市民一人ひとりが環境について学び、考え、環境にやさしい行動を積極的に実践するまちになっています。

基本目標 1

脱炭素社会

「脱炭素に配慮した暮らしを育むまち」

～地球へのやさしさを選択～

10年後の将来イメージ

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて市民・事業者・行政が一丸となり取組みを進めていくなか、脱炭素に貢献する省資源・省エネルギー型のライフスタイル、ビジネススタイルを選択することは、市民や事業者にとって日常的な習慣になっています。

2050年までに市域全体で再生可能エネルギーを基幹電源とするために、家庭や地域での再生可能エネルギー設備などの導入や利用が拡大し、エネルギーの地産地消が進んでいるほか、他の自治体や事業者との連携による再生可能エネルギーの調達が進んでいます。

また、エネルギー創出に加え断熱性などの省エネルギー性能を追求したエネルギー収支がプラスマイナス「ゼロ」の住宅や工場、ビルの建設が進んだほか、次世代自動車が普及しつつあるなど、まちの脱炭素化が進んでいます。

関連する SDGs



副次的な効果※1

- 住居の快適性の向上
- 徒歩・自転車利用の増加による健康の維持・増進
- 環境の保全、資源循環に寄与する新たなビジネスの創出
- 省エネ等による事業活動のコスト改善
- ICT（情報通信技術）の活用による、テレワークなどの働き方改革の実現
- エネルギーの自立による地域の防災・減災力の強化



※1 副次的な効果とは、基本目標に掲げる環境の取組みを実施することで、環境以外の分野（経済、産業、雇用、福祉、健康、防災など）において同時に実現可能となることをいいます。

基本目標 2

循環型社会

「資源循環に配慮した暮らしを育むまち」

～環境への負荷を減らす、生活の中でできること～

10年後の将来イメージ

「5つのRe」の取組みが定着し、資源循環に配慮したライフスタイル、ビジネススタイルを選択することは、市民や事業者にとって日常的な習慣になっています。

食品ロスの削減やプラスチックごみ削減に向けた意識が高まり、市民や事業者は、ごみになりにくいもの、本当に必要な分だけを購入する、不要なものをもらわないなど、市民1人が1日当たりに排出するごみの量が少ないまちになっています。

また、循環経済への移行が進み、ごみとして捨てるものでも資源として再利用する仕組みが整い、焼却処理されたり、最終処分されたりするごみの量が減っています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 健康を含む様々な生活の質（QOL）の向上
- 環境の保全、資源循環に寄与する新たなビジネスの創出
- 安全・安心に暮らせる居住環境の実現
- 資源回収等による市民活動の活性化
- 余剰食材のフードバンクでの活用増加



基本目標3

自然共生社会

「自然と人との共生を育むまち」

～多様ないのちを守る、居心地のいい暮らし～

10年後の将来イメージ

貝柄山公園やふれあいの森をはじめとして、社寺林や谷津周辺の斜面林などの緑が保全され、緑の骨格を形成し、まちにうるおいを与えています。また農業に携わる若い世代の育成により、農地の保全と積極的な活用が進み、農家レストランや、地元野菜・果物の朝市やフリーマーケット等の開催などが地域の魅力を高めています。同時に緑が気候変動やヒートアイランド現象を緩和したり、防災・減災に寄与したりしています。

これらの緑は市民や事業者との協働で手入れされ、多様な生き物や植物が確認できるようになり、生き物観察講座の開催が活発になっています。

まちなかでは、魅力ある公園が整備され、それらが街路樹、歩行者散策路、豊かな水辺環境等と結ばれ、さらに、市街地周辺の農地や樹林地等の自然環境とも緑と水のネットワークでつながっています。住宅、公共施設や民間の建物では、緑のカーテンなどの設置が進み、豊かな緑が身近に感じられるようになっています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 地域の価値や魅力の向上
- 自然とのふれあいによる健康の維持・増進
- 協働の推進、地域コミュニティの活性化
- 環境保全型農業による農産物の付加価値向上
- 農産物の地産地消の活発化
- グリーンインフラによる地域の防災・減災力の強化



体験型の自然環境講座（工作）

基本目標 4

安全・安心社会

「安全・安心・快適な暮らしを育むまち」

～環境変化の影響に備える～

10年後の将来イメージ

大気や河川、騒音、放射線などに対する調査・監視・指導の継続により、環境基準を達成しています。

ポイ捨てや不法投棄によるごみが少なくなり、美しいまちが維持され、市民の美化意識も高まっています。

また、集中豪雨に対する防災対策や異常高温に伴う熱中症予防のための意識が高まるなど、気候変動の影響による被害を最小限にする行動が定着しています。さらに、国や県と連携し、短時間の集中豪雨などによる浸水被害や土砂災害の防止対策の強化が図られ、災害に強く安全・安心に暮らせるまちになっています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 地域の価値や魅力の向上
- 健康を含む様々な生活の質（QOL）の向上
- 環境の保全、資源循環に寄与する新たなビジネスの創出
- 安全・安心に暮らせる居住環境の実現
- グリーンインフラによる地域の防災・減災力の強化



新鎌ヶ谷駅北口駅前広場

基本目標5

市民・事業者との協働

「環境パートナーシップを育むまち」

～未来のこと、一緒に考えよう～

10年後の将来イメージ

家庭や学校、職場など様々な場面で、環境問題について正しい知識を学び、その解決に向けて積極的に行動できる市民や事業者が増え、持続可能な消費行動が生活習慣となって定着しています。

子どもから大人まで誰もが気軽に楽しみながら参加できる環境学習会やイベントが数多く開催されるなど、環境学習の機会も増え、市民・事業者・行政の協働による環境保全活動が積極的に行われています。環境保全活動を通して、市民と事業者の間の交流が生まれ、さらに発展的な活動へと取組みの輪が広がりを見せています。

環境問題について気軽に学べる機会が増えたことで、多種多様な取組みが実践されており、環境活動の重要性や楽しさを伝える情報の受発信も盛んに行われています。

関連する SDGs



副次的な効果

- 地域の価値や魅力の向上
- 健康を含む様々な生活の質（QOL）の向上
- 協働の推進、地域コミュニティの活性化
- 活動を通じた健康の維持・増進
- 生涯学習社会の実現、生涯学習の活性化



初富小学校プールの水質浄化実験（花いかだ）

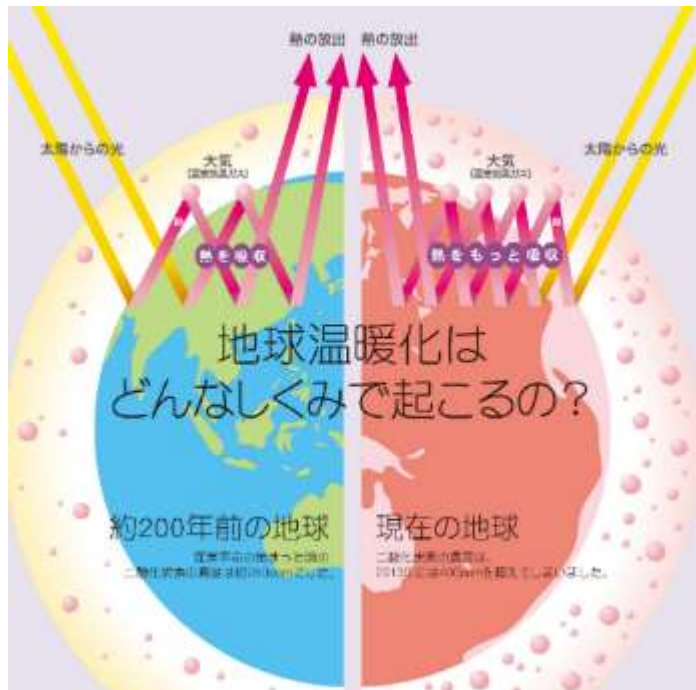
手づくりの環境啓発用紙芝居

コラム：地球温暖化のメカニズム

太陽からのエネルギーは、約 7 割が地表面で吸収され、約 3 割は雲や雪によって宇宙に反射されます。海や陸地など、地表面で吸収されたエネルギーは熱（赤外線）として大気中へ放出され、宇宙へと逃げていきます。大気中の水蒸気や二酸化炭素などの温室効果ガスが地表面から放出される熱の一部を吸収し、熱を宇宙に逃げにくくするため、地球の平均気温は約 14℃に保たれ、生物の住みやすい環境が維持されています。もし、温室効果ガスが無ければ、地表面から放出される熱は何にも遮られず宇宙へと逃げてしまうため、地球の平均気温は約マイナス 19℃になると言われています。

このようにとても重要な役割をもつ温室効果ガスですが、近年私たちの生活や生産活動等によって、石炭や石油等の化石燃料の利用に伴い多くの二酸化炭素（CO₂）が排出され、大気中の温室効果ガスの濃度が高くなり熱の吸収が増えた結果、地球の気温が上昇する「地球温暖化」が引き起こされています。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第 6 次評価報告書第 1 作業部会報告書（2021 年 8 月公表）では、「地球温暖化が起きていることだけでなく、地球温暖化が人間の影響で起きていることは『疑う余地がない』と、これまで「可能性が高い」「可能性が非常に高い」と評価してきた地球温暖化の人為的影響について初めて断定されました。



出典：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト
(<https://www.jccca.org/>)



かまがや環境フェア

本市では例年 10 月の「鎌ヶ谷市民まつり」の開催に併せて「かまがや環境フェア」を開催しています。

近年は新型コロナウイルス感染症の影響で対面での開催はできていませんが、それに代わるものとして「鎌ヶ谷環境フェアオンライン」(写真左)を市ホームページ上で公開し、環境問題の啓発を行いました。